

英語の授業において生徒の学習意欲を高めるための一考察

— 実習校でのつまずきの軽減を目標とした授業づくり —

学籍番号 209305
氏名 荻野 秀謙
主指導教員 池嶋 伸晃 先生

1. はじめに

大学時代の現地研修や教育実習で、学習意欲が低そうな生徒がいた。そこで、どのような授業を行えば、生徒の意欲を高めることができるのかと疑問に思った。

実際に近年、生徒の学習意欲が低いことが問題視されている。国立青少年教育振興機構が4カ国に対して行った調査では、他3カ国に比べて、日本の高校生の学習意欲が低いことが明らかとなっている。このことから、生徒の学習意欲の向上が求められていることが分かる。

また、昨今のグローバル化が進む中で、英語の学習意欲を高めることの重要性が高まってきている。しかしながら、生徒の英語に対する学習意欲はそこまで高くない。2018年のA民間教育研究所での調査より、小中学生は英語に対して否定的な感情を持っている生徒が多いことが分かる。このことから、否定的な感情を持ったまま高校で英語の授業を引き続き受けることになる。

2. 先行研究と研究方法

生徒の意欲を高める上で、生徒の英語嫌いを解消する必要がある。三浦(2013)によると、生徒の英語嫌いを解消する道は、第1にわかりやすい授業をすること(生徒が「身につけやすい」と解釈して、英語でのトレーニングをはじめ、最終的にインタラクションで使いこなして身につけることができる授業)、第2に楽しい授業をすること(自己関与性と有用性を見出せる授業)であると書かれている。

次に、つまずきのポイントについてである。大修館書店「英語教育」3月号 Vol.69 No.13において安木は、学習者がつまずきやすい6つのポイント(文法が難しい、アウトプット活動の困難さ、文字と音の一致に関するつまずき、単語暗記のつまずき、リスニングやリーディングのつまずき、そのほかのつまずき)を挙げている。

本研究では、生徒の意欲を高める方法を考察する。授業実践後には生徒へのアンケートや聞き取り、実習校の先生方からのフィードバックをもとに、自身の授業実践の課題を把握する。自身の授業改善や、理解状況を把握するための小テストを繰り返す中で、意欲的に参加できる授業方法やつまずきの軽減方法を考察する。

3. 基本学校実習での実践

基本学校実習Ⅰでは、実習校と生徒について把握することと予備調査を実施して、生徒の英語に対する思いを把握すること、授業実践後の先生方からのフィードバックとアンケートを通じて、授業改善に努めることを目標に取り組んだ。その結果、4つの課題があったことが分かった。1つ目に、自身におけるタイムマネジメント力の不足である。2つ目に、アンケートについてである。3つ目に、**Oral Introduction**を行うことができなかったことである。4つ目に、英文法や語彙などの英文の解析力がなかったことである。

基本学校実習Ⅱでは、指導担当の先生の授業を見させていただき、どのような授業実践をされているのかを把握した。

4. 発展課題実習Ⅰでの実践

引き続き指導担当の先生の授業見学を通じて、生徒の意欲を高める方法を把握した。その方法には、単語を教える際の指導の工夫や本文を解説する際の工夫、内容確認の際の指導の工夫、リテリングをさせる際の指導の工夫があることが分かった。

授業実践における自身の課題は、6つあることが分かった。1つ目に、目的を明確にしないまま授業を行ったことである。2つ目に、提示スライドの枚数が多くなりすぎたことである。3つ目に、英語での **Oral Introduction** により生徒の興味や関心を引くことができなかったことである。4つ目に、**Classroom English** を一切使用していなかった代わりに、指示などは全て日本語で行なっていたことである。5つ目に、発問が少なく、代わりに、一方的に話すことが多かったことである。6つ目に、説明方法に課題があったことである。

これらの課題を踏まえて、発展課題実習Ⅱでは、自身が考えためざすコミュニケーション英語の授業展開をもとに授業に取り組むように努めた。

5. 発展課題実習Ⅱでの実践

指導担当の先生を含む、実習校の先生方12人の授業を見させていただき、生徒の意欲を高めるための方法を学ばせていただいた。また、私が教えさせていただいた学年の生徒が、多教科ではどのような場所ですまづいているのかを把握するために、他教科の先生方に生徒のつまづきの場所についての聞き取りをさせていただいた。その結果、実習校の生徒のつまづきの特徴として、授業で内容を理解する上でのつまづきと中学校や小学校での学習内容でのつまづきがあることが分かった。

授業実践後に自身の課題を振り返ってみたところ、生徒への教え方と教える時の態度について課題があることを認識することができた。また、めざすコミュニケーション英語の授業展開をもとに授業に取り組むことがあまりできなかった。その中で特に本文の説明に関しては、間違えて説明した場所があったり、生徒に十分発問ができなかったりしたなどの課題があった。しかしながら、13回の授業実践とそれに関するアンケートを行わせていただいた中で、協働学習という形でのペアでの単語の確認が生徒の意欲を高めることができたことを把握することができた。

